

# ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニュースレター（日本語版）, No.84, February 2014

---

---

ARSC 事務局：〒162-0805 東京都新宿区矢来町 126

NITTO ビル (株)メッツ研究所内

応用地域学会 文部科学省学会コード=10023

会長： 中村良平 担当：宮本成雄

TEL: (03)5227-7804

FAX: (03)5227-7807

E-mail : clerk@arsc.org

---

---

主要項目： 第 27 回研究発表大会報告  
2013 年度坂下賞  
2013 年度応用地域学会論文賞  
2014・2015 年度 運営委員選挙案内  
第 28 回研究発表大会のご案内  
第 4 回アジア地域科学セミナーのご案内  
2014 年度会費納入のお願い  
総会報告

---

---

## 1. 第 27 回研究発表大会報告

大会実行委員長 小林潔司（京都大学）

### 1. 大会概要

第27回応用地域学会京都大会は、2013年12月14日(土)、15日(日)の2日間にわたり京都大学吉田キャンパス本部構内において開催されました。大会では研究発表大会に加え、一般公開シンポジウム、坂下賞講演、総会が行われ、2日間の開催期間中に206名の参加者がありました。大会の実施・運営は、小林と文世一先生、森知也先生、松島格也先生（京都大学）が担当し、プログラム編成は浅田義久先生（日本大学）を委員長とするプログラム委員会が担当しました。

### 2. 研究発表大会

研究発表大会では、計5つのセッション会場が設けられ、2日間に73編の研究論文が報告されました。一般セッションでは、近年応用地域学会の中心的研究領域として注目を集め

ている空間経済学や空間統計をはじめ、集積の経済、交通、住宅、立地、震災復興、途上国経済といった主要テーマに関して、多くの報告が行われました。Early Bird セッションでは7編の報告がありました。そのほか、シンクタンクセッションも開催され、シンクタンクの実務家による最先端の事例紹介がありました。いずれのセッションやシンポジウムにおいても、討論者やフロアの参加者から多くの意見が寄せられ、活発な研究発表大会となったと考えております。

### 3. 一般公開シンポジウム

本シンポジウムでは、日本型クリエイティブ・サービスに焦点をあて、価値の毀損を回避し、持続的でかつ発展可能な価値創出の枠組みの整理とそのグローバルな地域展開の可能性について議論しました。価値の源泉が、有形の「もの」から「サービス」や「人」など無形の資産へと変容する社会において、価値を創造する設計指針（サービス・デザイン）を得たい生産者・ビジネスパーソンや、生活感度（サービス・リテラシー）を高めたい消費者を支援することをねらいとしています。日本型クリエイティブ・サービスは、日本において連続と培われてきた高品質サービスですが、21世紀の成熟化経済に則した新時代の萌芽ともいえます。このような分野の調査・分析には、実証（認識・設計）科学に加えて、実践科学的サービス研究という新しい方法論が必要となります。シンポジウムでは、実践科学の方法論についても発表があり、活発な意見が交換されました。東京オリンピックの招致がきまり、一躍「おもてなし」ということばが世界的に有名になりましたが、「おもてなし」の概念化や科学的アプローチは、依然として未知の部分が多いといわざるをえません。本シンポジウムを通じて日本型クリエイティブ・サービス研究に関して興味をもっていただけたら望外の幸せです。

### 4. 坂下賞記念講演

2012年度坂下賞受賞者の広島大学塚井誠人氏より、「社会基盤の可能性：空間・時間・長期記憶性」と題して坂下賞記念講演が行われました。この講演では、まず時系列過程の特性として近年注目を集めている長期記憶性について、Box-Jenkins法との対比に基づく入門的な紹介が行われました。その後、計量経済モデルへの適用例として、社会基盤ストックの生産力効果に長期記憶性を考慮した時空間地域生産関数モデルの推計結果が紹介されました。講演を通じて、時空間的な波及を伴う現象のうち、特に長期かつ広域に残存する現象に対する長期記憶性の表現力の高さが強調されており、地域科学分野における適用例の蓄積が望まれる内容でした。

### 5. 総会

上記坂下賞記念講演が終了した後で、17時30分から18時30分まで2013年度の総会が開かれました。2013年度活動報告および学会活動方針、会員異動報告、2012年度決算および2014年度予算が承認されました。その後、2013年度の坂下賞が、隅田和人先生（東洋大学）に与えられました。隅田先生の主たる貢献は、応用計量経済学、不動産経済学、住

宅経済学の分野において、多くの実証的な研究を実施するとともに、そこから数多くの住宅政策的含意を導出している点にあります。つづいて、瀬谷創氏、堤盛人氏、山形与志樹氏の「Weighted-Average Least Squares の空間計量経済モデルへの適用」(応用地域学研究 第16号, 2011) に応用地域学会論文賞が与えられました。本論文は、空間計量経済モデルに Weighted-average least squares (WALS) と呼ばれるモデル平均化アプローチを適用した方法の有効性をモンテカルロ実験により分析したものです。最後に、第28回研究発表大会は平成26年11月29日(土)、30日(日)琉球大学を開催校として沖縄県自治会館において、第4回アジア地域科学セミナーは韓国地域学会が主催することが報告されました。

## 2. 第28回研究発表大会のご案内

---

ARSC 事務局

2014年度のARSC研究発表大会は、琉球大学が開催校となり、大会実行委員長岩橋培樹准教授(琉球大学法文学部)を中心に、下記要領にて実施いたします。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

**日 程 : 2014年11月29日(土)、30日(日)**

(総会、懇親会は11月29日を予定)

**会 場 :** 沖縄県自治会館(那覇空港から車で10分、沖縄モノレール旭橋駅から徒歩5分)

(HP <http://www.okinawa-jichikaikan.com/index.html>)

**発表申込み〆切 : 2014年9月初旬(予定)**

**論文提出〆切 : 2014年10月末(予定)**

お問合せ : ARSC 事務局

(発表申込先および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS 次号(6月発行予定)、メーリングリスト、ホームページ(予定)で、ご案内していきます。)

## 3. 第4回アジア地域科学セミナーの開催案内

---

ARSC事務局

第4回アジア地域科学セミナーは、2014年8月5日(火)、6日(水)、7日(木)と、韓国地域学会の主催で、韓国のソウル国立大学(Seoul National University, Seoul)で開催されます。詳細は、メーリングリスト、ホームページ等で、順次お知らせしていきます。

**\*開催日 ; 2014年8月5日(火)、6日(水)、7日(木)**

(最終日は、エクスカージョンの予定あり)

**\*参加申し込み・アブストラクトの提出**

; 2014年4月21日

\* 発表論文の提出

; 2014年6月30日

\* 参加費; 一般\$150 学生\$75

#### ◎アジア地域科学セミナー開催経緯

総会でも紹介されましたように、応用地域学会 (ARSC) と中国地域学会 (RSAC) とが共同開催してきました地域科学に関する日中共同セミナーは、2010年度から、広くアジア地域に広げ、アジア地域の地域科学の発展と研究交流の場としてスタートし、第1回は、北京大学で開催されました。

第2回は、2011年9月に、東北大学(日本 仙台市)での開催予定でしたが、大震災の影響で延期され、2012年9月に、北九州市で開催されました。この第2回からは、日本、中国、台湾、韓国の学会の共催のセミナーとして、原則、各国持ち回り開催とし、開催国が、開催費用を負担し、参加者から、参加費等を徴収するという開催方法に変わりました。

第3回は、台湾地域学会の主催で、台湾の国立東華大学 (National Dong Hwa University; 台湾花蓮県寿豊郷) で、2013年8月7, 8日に開催されました。日本からは、22件の発表と藤田先生の講演、合計28人の参加がありました。

#### 4. 2013年度坂下賞 (Sakashita Prize)

2013年度坂下賞選考委員会 委員長 瀬古 美喜(武蔵野大学)

2013年度「坂下賞」を現東洋大学経済学部准教授 隅田和人氏 (現在 40歳) に授与することを決定した。

##### 授賞理由:

隅田和人氏の主たる貢献は、応用計量経済学、不動産経済学、住宅経済学の分野において10編以上の国際誌および国内誌に掲載された査読論文を執筆し、多くの実証的な研究を実施するとともに、そこから数多くの住宅政策的含意を導出している点にある。なかでも、2003年の『応用地域学研究』に掲載された論文では、持家住宅取得者の住宅ローン残高に応じた所得税控除税制が、東京都区部の中古マンションの品質調整済み住宅価格指数に及ぼす影響を分析し、住宅ローン減税による実効補助率の増加は、住宅価格を上昇させるほど十分な影響を及ぼしているとは言えないが、実効補助率の住宅価格への影響は、控除制度の拡充とともに増大したということを示した。日本における住宅ローン減税の住宅価格への影響を、時系列データを用いて分析した既存研究は存在せず、政策的にも意味のある研究となっている。さらに、2007年の論文では、パネルデータを用いて、日本の住宅市場に特有な2つの政策、つまり2004年に導入された持ち家の譲渡損失繰越控除制度ならびに借地借家法が転居に与える影響を、ハザード・モデルにより分析した。住宅資産制約に注目して、持家

からの転居を分析した先行研究は、海外には若干存在するが、住宅資産制約を緩和する政策（ここでは譲渡損失繰越控除制度）の転居への影響を分析した既存研究はなく、本研究が最初のものである。また、日本の借地借家法による継続家賃は、暗黙の家賃補助であるが、このような形での家賃統制が転居に及ぼす影響を分析した研究は、本研究が初めてである。

以上、隅田氏はいずれの論文においても、特に都市・地域経済学で重要なテーマである住宅価格変動に対する住宅政策の影響を、時系列データと個票データを利用して厳密な計量経済学的手法により分析し、多くの有益な成果を得ている。また本学会にもほぼ毎年発表者や討論者として積極的に参加しており、学会活動に大きく貢献している。よってここに 2013 年度坂下賞を授与する。

#### 代表的業績：

隅田和人（2003）、住宅ローン減税の東京都区部中古マンション価格に及ぼす影響についての実証分析：エラー修正モデルによる接近、『応用地域学研究』8(2)、pp. 69-80.

Seko, M and K. Sumita (2007), Effects of Government Policies on Residential Mobility in Japan: Income Tax Deduction System and the Rental Act, *Journal of Housing Economics*, 16(2), pp. 167-188.

#### 2013年度坂下賞選考委員会

委員長 瀬古 美喜（武蔵野大学）  
委員 小林 潔司（京都大学）  
委員 浜口 伸明（神戸大学）  
委員 中村 良平（ARSC 会長）  
委員 文 世一（ARSC 副会長）

坂下賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、隅田和人氏には、中村良平会長から、表彰状（盾）と金一封が授与されました。

## 5. 2013 年度応用地域学会論文賞(Best Paper Award of ARSC)

2013 年度応用地域学会論文賞選考委員会 委員長 黒田達朗

選考委員会では、主として 2011 年以降の応用地域学研究ならびに RURDS に掲載された学会員の論文を対象に、慎重に審議した結果、本年度の応用地域学会論文賞は下記の論文に授与することとした。

#### 授賞論文

論文名： Weighted-Average Least Squares の空間計量経済モデルへの適用

掲載誌：応用地域学研究 第 16 号（2011）

著者：瀬谷創・堤盛人・山形与志樹（3 名とも学会員である）

#### 選考理由：

近年、地域科学関係の国際会議や国際誌においては、空間計量経済学の占める割合が非常に高くなっている。一方で、我が国では空間計量経済学を専門とする研究者は数える程しかおらず、実証研究も未だ少ない。そのような中で著者らは、空間計量経済学に関する理論・実証研究を積み重ねており、本論文は、空間計量経済モデルに Weighted-average least squares (WALS) と呼ばれるモデル平均化アプローチを適用した独創性の高い研究である。本論文では、緻密な2種類のモンテカルロ実験により、(1) データ発生過程が空間的自己相関を持つ確率過程である場合、従来の非空間推定量が過大方向のバイアスを持つため、単純な非空間モデルの適用が誤った政策的示唆につながる可能性があること、および(2) 空間計量経済モデルと WALS の組み合わせが、除外変数バイアスの緩和に有用であること、が示されている。モデル平均化に空間的自己相関を導入する一つの方法論を提示しつつ、空間的自己相関を無視することの危険性を示した本研究の意義は非常に大きい。

よって、本論文は応用地域学会論文賞を授与するにふさわしいと判断した。

2013年12月14日

#### 2013年度応用地域学会論文賞選考委員会

委員長 黒田 達朗 (名古屋大学)  
委員 大澤 義明 (筑波大学)  
委員 奥村 誠 (東北大学)  
委員 中村 良平 (ARSC会長)  
委員 文 世一 (ARSC副会長)

応用地域学会論文賞の表彰は、応用地域学会総会の中で行われ、著者の瀬谷創、堤盛人、山形与志樹の三氏それぞれに、中村良平会長から、表彰状(盾)が授与されました。

## 6. 2014・2015年度運営委員選挙について

選挙管理委員 高塚 創 (香川大学)  
横井 渉央 (東北大学)

下記のように次期運営委員の選挙を行います。この運営委員選挙の管理委員は、応用地域学会選挙内規Ⅱ第3条に従い、会長指名により、香川大学の高塚 創会員と東北大学の横井 渉央会員が務めます。

ARSC 会則第8条および内規Ⅰにしたがって、下記の要領で第13期(2014年4月1日から2015年3月31日まで)運営委員の選挙を行います。

投票は、別途郵送(同封)の選挙葉書により、3名連記の投票をお願いいたします。投票の締め切りは、**2012年3月14日(金)(当日消印有効)**といたします。

(別添の運営委員選挙の案内に従って投票をお願いします。)

## 7. 会員の入退会について

ARSC 事務局

2013 年度総会（2013 年 12 月 14 日）において、前回総会以降に入退会を申請された以下の方々の入退会が承認されました（順不同・敬称略）。

### 入会（一般 13 名）

大窪和明(東北大学)、片岡博美(近畿大学)、大澤理沙(東北大学)、前田出(豊橋市)、山澤成康(跡見学園女子大学)、平松燈(熊本学園大学)、南博(北九州市立大学)、片岡孝夫(早稲田大学)、猪俣哲史(日本貿易振興機構アジア経済研究所)、藤嶋翔太(東京大学)、岩橋培樹(琉球大学)、森岡拓郎(東京理科大学)、田村龍一(一橋大学)

#### (学生 12 名)

高橋達(早稲田大学)、津布久将史(名古屋大学)、黄俊揚(政策研究大学院大学)、爲季和樹(筑波大学)、大澤実(東北大学)、中川万理子(東京大学)、松崎朱芳(青山学院大学)、渡邊淳司(岡山大学)、山田雄一(筑波大学)、矢田晃一(筑波大学)、濱津桃子(筑波大学)、瀬木俊輔(京都大学)

同時に以下の方々の退会が承認されました（敬称略）。

### 退会（一般 13 名）

森田大樹(三井情報株式会社)、福井紳也(大阪府立産業開発研究所)、三好皓市(立命館アジア太平洋大学)、土屋智子(電力中央研究所)、土井正幸(土井筑波大学名誉教授研究室)、宮城俊彦(東北大学)、久武昌人(経済産業研究所)、小路泰広(関東整備局)、岡村誠(広島大学)、酒井泰弘(滋賀大学)、西村一彦(日本福祉大学)、小原宏(郵政総合研究所)、松井和久(大阪大学)

#### (学生 8 名)

屈超(東北大学)、宣超(岡山大学)、高橋寿明(東北大学)、渡辺信康(北九州市立大学)、王慶(同志社大学)、小西俊作(筑波大学)、斎藤雅樹(東北大学)、安起正(京都大学)

#### (海外 1 名)

Paelinck, Jean H.P. (George Mason University)

#### (賛助会員 2 法人)

南山大学図書館、(一財)電力中央研究所社会経済研究所

この結果、2013 年 12 月 14 日現在の会員数は、下表のとおりとなります。

(一般会員 424 人、学生会員 56 人、海外会員 8 人、賛助会員 6 法人(8 口))

		2012 年 11 月	入会	退会	転格	2013 年 12 月
個人会員	一般会員	420	13	-13	4	424
	学生会員	56	12	-8	-4	56
	海外会員	9	0	-1		8
	合計	485	25	-12	0	488
賛助会員		8 (10 口)	0	-2	0	6 (8 口)

## 8. 2014 年度会費納入のお願い

ARSC 事務局

会員データベースに基づいて発行された請求書をお送りします。ご請求額を 2014 年 4 月 30 日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。また、この請求額について疑義のある場合には、学会事務局までお問い合わせ下さい([clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org))。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の内訳（対象年度等）を必ずご記入下さい。（振込用紙は、請求書に同封して、送付いたします。）

### (1) ARSC 会費

2014 年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。また、海外会員（日本人の短期滞在者を除く）は、ARSC 年報(応用地域学研究)を購読される場合\$80、購読されない場合\$60 です(RURDS は、全員に配布)。なお、海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出された US ドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

### (2) RSAI（国際地域学会）会費

#### <RSAIの会費納入>

RSAIの年会費は、会員に対するサービス内容によって以下のようになっております。応用地域学会を通じて、既にRSAI会員である方、新たにRSAI会員となることを希望する方は、受けている、または、希望するサービス内容の金額を、ARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

#### ○ジャーナルの印刷物を郵送で受取るサービスを受ける場合（A）

一般会員： ¥6,000円      学生会員： ¥3,000円

##### <サービス内容>

- ・ジャーナル（PiRS）の郵送による受け取り
- ・ニューズレターの郵送による受け取り

#### ○ジャーナルや情報への電子アクセスのみを受ける場合（B）

一般会員： ¥1,200円      学生会員： ¥800円

##### <サービス内容>

- ・PiRSの電子コピー（Eメールによる受け取り）
- ・ニューズレターの電子コピー（Eメールによる受け取り）

##### <A, Bに共通したサービス内容>

- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- ・RSAIホームページへのアクセス
- ・RSAIの会議への参加費割引



- ・メンバーリストへのアクセス

### <RSAI 会員の入退会・継続、サービス区分の変更の希望>

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。新規に入会を希望される方、ならびにサービス区分を変更される方は、希望するサービス区分を会費払込票の通信欄に記入し、当該会費を振り込みください。退会する場合も通信欄にその旨ご記入ください。（この通信欄の記入をもとにARSC事務局が、RSAI 会員サービス提供の手続きを行います。）

## 9. 総会報告

---

ARSC 事務局

2013 年度の総会は、大会中の 12 月 14 日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

### 議題及び要旨；

#### 1) 学会活動報告及び活動方針

中村良平会長より、2013 年度の活動・方針を中心とした学会の運営方針が示されました。

#### 2) 会員異動報告（前掲）

#### 3) 2012 年度決算（別掲）

監査委員（内藤徹先生(徳島大学)、松島格也先生(京都大学)) の監査を受けた 2012 年度決算書が報告され、原案どおり 2012 年度決算が承認されました。

#### 4) 2014 年度予算（別掲）

原案どおり 2014 年度予算が承認されました。

#### 5) 応用地域学会 2013 年度坂下賞(前掲)

2013 年度坂下賞は、前掲のとおり、東洋大学の隅田和人氏が、授賞されました。（前掲）

#### 6) 2014 年度研究発表大会の開催について（前掲）

#### 7) 2014 年度アジア地域科学セミナーの開催について（前掲）

#### 8) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

##### ①応用地域学研究

応用地域学研究会の編集委員長の大澤義明先生（筑波大学）から、No.18 の編集状況について、投稿数が少ないこともあって発刊が遅れていること、年々投稿本数が減っている傾向にあるが、皆様の奮っての投稿をお願いします、との報告がありました。

##### ②RURDS

RURDS の編集については、編集委員長黒田達朗先生（名古屋大学）から、2012 年度の発刊は、No.1、2 合併号は、編集も終わり、間もなく送付されること、No.3 も 1 月~2 月には発刊される予定である旨の報告がありました。

## 10. 事務局だより

---

ARSC 事務局 宮本成雄

- **第 27 回 ARSC 研究発表大会**は、初冬の京都大学で開催されました。大会委員長の小林 潔司先生をはじめとし、京都大学の文世一先生、森知也先生、松島格也先生、皆様のご協力をいただき、盛大に開催されました。皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。また、プログラム委員長を勤められた浅田義久先生（日本大学）とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、同じく深く感謝申し上げます。
  
- **運営委員の選挙**です。2014 年度からの 2 年間、ARSC の運営を具体的に議論し、方向づけていただく運営委員を選出する大事な選挙です。投票は、別途ご案内のとおり、事務局から送付される選挙はがきに、運営委員にふさわしいと思われる会員 3 名を連記し、投函・郵送することによって行われます。**投票締め切りは、3 月 14 日(金) (当日消印有効)**です。何かとご多忙の折かと思いますが、お忘れなきようお願い申し上げます。
  
- **会員登録情報の変更をお忘れなきようお願いいたします。**新しい年度への移り変わりの時節、勤務先の異動、就職など、皆様の会員登録の内容を変更される方も多々いらっしゃると思います。登録情報に変更が生じた場合は、速やかに、ホームページにある「**会員ページ**」<<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>>にログインし、変更登録することをお願い申し上げます。(ログイン ID,パスワードをお忘れの方は、事務局<clerk@arsc.org>にお問い合わせください。)
  
- **地域科学に関連する分野の研究**に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。入会申込は、**web 上で行えます**。ARSC のホームページ(<http://www.arsc.org>)より、「**新規入会**」のページにアクセス、又は、直接 (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/entry/arsc>) にアクセスし、必要事項を記入し、送信してください。

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)決算

収入の部	2011年度決算		2012年度予算		2012年度決算(案)	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	7,913,674		8,837,918		8,837,918	
2.個人会費収入	3,921,399		4,625,000	1,100.00	4,061,693	
3. RSAI会費	199,600		271,000		190,400	
4.賛助会費収入	600,000		900,000		300,000	
5.補助金(科学研究費補助)	0		0		0	
6.大会参加費収入	579,000		860,000		1,222,000	
(年次大会)	579,000		560,000		516,000	
(アジア地域科学セミナー)	0		300,000		706,000	
7.大会開催寄付金	100,000		0		0	
8.利子収入	279		0		413	
9.雑誌販売(Back Number)	9,250		0		11,550	
10.その他	800,000		400,000		400,000	
(RURDS編集補助*)	400,000		400,000		400,000	
(同上 前年度)	400,000		0			
収入合計	14,123,202		15,893,918	1,100.00	15,023,974	
(繰越金を除く収入合計)	6,209,528				6,186,056	

(\* (財)昭和経済研究所より)

支出の部	2011年度決算		2012年度予算		2012年度決算(案)	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1. RURDS購読費	2,797,144		3,549,500		5,114,569	
(編集経費等)	70,200		400,000		56,460	
(購読費)	2,726,944		3,149,500		5,058,109	
2.年報刊行費	0		1,815,310		865,310	
3.大会開催費	952,628		1,870,000		1,941,827	
(年次大会)	952,628		1,070,000		949,114	
(アジア地域科学セミナー)	0		800,000		992,713	
4. RSAIへの送金	264,856		271,000		229,123	
5.坂下賞	121,000		121,000		121,000	
6.名簿印刷費	0		0		0	
7. ニュースレター等印刷費	48,037		20,000		0	
8.一般事務費	360,433		190,000		539,060	
(郵送費)	108,715		50,000		137,320	
(消耗品等)	28,138		20,000		17,176	
(謝金・交通費等)	209,870		100,000		363,999	
(銀行手数料)	13,710		20,000		20,565	
9.事務局費	741,186		570,000		636,368	
(事務管理・事務員費)	495,080		400,000		458,350	
(会員管理システム費)	246,106		170,000		178,018	
10.予備費	0		50,000			
支出合計	5,285,284		8,456,810		9,447,257	
繰越金	8,837,918		7,437,108	1,100.00	5,576,717	
ドル貨円換算(手数料を除く)			41,500			
繰越金合計	8,837,918		7,478,608		5,576,717	

注: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2013年 11月 / 日

監査委員

内藤 徹



監査委員

松島 格也



## 2014 年度予算

応用地域学会2014年度予算書						
収入の部	2012決算		2013 年度予算		2014 年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	8,837,918		5,576,717		5,110,817	
2.個人会費収入	4,061,693		4,675,000	1,100.00	5,175,000	700.00
3.RSAI会費	190,400		281,000		242,000	
4.賛助会費収入	300,000		800,000		700,000	
5.補助金(科学研究費補助等)	0					
6.大会参加費収入	1,222,000		560,000		860,000	
(年次大会)	516,000		560,000		860,000	
(地域科学セミナー)	706,000		0		0	
7.大会開催寄付金	0		0		0	
8.利子収入	413		0		0	
9.雑誌販売(Back Number)	11,550		0		0	
10.その他	400,000		0		0	
(RURDS編集補助*)	400,000		0		0	
			0		0	
収入合計	15,023,974		11,892,717	1,100.00	12,087,817	700.00
(繰越金を除く収入合計)	6,186,056		6,316,000	88,000	6,977,000	700.00
(ドル貨を含む)			6,357,500		7,016,000	
支出の部	2012決算		2013 年度予算		2014 年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	5,114,569		3,681,400		3,667,600	
(編集発行費)	56,460		500,000		550,000	
(会員購読費)	5,058,109		3,181,400		3,117,600	
2.年報刊行費	865,310		900,000	0.00	900,000	0.00
(2012年度No.17)						
(2011年度No.16)	865,310					
3.大会開催費	1,941,827		980,000	0.00	1,240,000	0.00
(年次大会)	949,114		960,000	0.00	1,220,000	0.00
(地域科学セミナー)	992,713		20,000	0.00	20,000	0.00
4.RSAIへの送金	229,123		281,000	0.00	242,000	0.00
5.坂下賞	121,000		121,000	0.00	121,000	0.00
6.論文賞					40,000	
6.ニューズレター等印刷費	0		20,000	0.00	15,000	0.00
7.一般事務費	539,060		290,000	0.00	310,000	0.00
(郵送費)	137,320		100,000	0.00	120,000	0.00
(消耗品等)	17,176		20,000	0.00	20,000	0.00
(交通費・謝金等)	363,999		150,000	0.00	150,000	0.00
(銀行手数料)	20,565		20,000	0.00	20,000	0.00
8.事務局費	636,368		500,000	0.00	500,000	0.00
(事務管理・事務員費)	458,350		330,000	0.00	320,000	0.00
(会員管理システム費)	178,018		170,000	0.00	180,000	0.00
9.予備費			50,000	0.00	20,400	0.00
支出合計	9,447,257		6,823,400	0.00	7,016,000	0.00
繰越金	5,576,717		5,069,317	1,100.00	5,071,817	700.00
ドル貨円換算(手数料を除く)			41,500		39,000	
繰越金合計	5,576,717		5,110,817		5,110,817	
収支差	-3,261,201		-465,900		0	

注1; 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。